

【第 1 号議案－①】

令和 3 年度
事業報告書

公益財団法人 小樽商科大学後援会

令和 3 年度事業報告書

(自令和3年4月1日 至令和4年3月31日)

1. 事業概要

当法人は公益財団法人移行後も引き続き母校の学術振興を目的とした支援を継続している。当年度は母校創立110周年記念募金の最終年度として、目標を大きく上回る1億3千万円を超える寄付金を集めることができた。とりわけ同窓生の個人による寄附金を中心となっており、募金は来年度に募金趣意書の記載の3支援事業に活用される。一方、収益事業である緑丘会館の運営は、コロナ禍に伴う影響から、会合等の激減により、事業収益は当年度も大幅に減少となった。事業の運営にあたっては、公益認定基準の適合性を維持するために従来通り監事監査の充実を図っている。また110周年記念募金の寄附金は目的指定正味財産として固定しており、経常費用として活用できないため、今年度も過去の募金による資産を取崩して事業資金に充当している。

2. 事業別概要

各事業の主な内容は次のとおりである。

(1) 公益目的事業

①寄附金募集

母校創立110周年記念募金

期中276件、金額19,520千円の募金応募があり、大学と連携して目標額の1億1,500万円を大幅に上回ることができた。一方募金実績を世代別に見ると60歳以上の世代からの寄附が8割を占めている。今後の募金活動を考えるうえで、平成卒業世代を含めた募金意識の醸成に取り組んでいくことがますます必要である。

②助成事業

国立大学法人小樽商科大学へ以下の通り助成を行った。

ア. 学生支援のための資金助成

「緑丘奨励金」として成績優秀な学部生15名に対し各人100千円、大学院生3名に対し各人50千円の奨学金給付のための助成を行った。

令和3年度助成額： 1,650,000円

イ. 国際交流事業支援のための資金助成

小樽商科大学が学生交流協定を締結している海外の諸大学（現在15ヶ国20大学）における派遣留学生、受入留学生に対する奨学金の給付、留学費用の一部負担及び国際交流関連経費に対する資金助成であるが、交換留学はコロナの影響で殆ど実施できず、語学留学はリモートでの実施を行った。受入れ私費留学生に対しては計画通り、7名に奨学金を給付した。

令和3年度助成額： 3,772,000円

ウ. 札幌サテライト運営支援のための資金助成

ビジネススクール（MBA）の安定的運営を実現し、多くの企業人に専門性の高い生涯学習の機会を与えるため設置された札幌サテライトの運営費用の一部に対する助成を計画通り行なった。

令和3年度助成額： 1,000,000円

エ. 学長リーダーシップ事業支援のための資金助成

学長のリーダーシップにより企画実施される事業に係る経費に対しての助成を行った。

内、学習成果把握や環境整備確認に782千円、教員海外派遣に1,000千円、また110周年記念シンポジウムに2,000千円を、その他364千円を助成した。

令和3年度助成額： 4,145,901円

オ. 110周年記念募金の先行しての資金助成

110周年記念募金に同窓生から500万円の寄附があり、事情により、先行して助成した。

令和3年度助成額： 5,000,000円

令和3年度助成総額

（ア～オ 合計） 15,567,901円

(2) 収益事業

公益目的事業を支える「緑丘会館」の運営事業である。

公益社団法人緑丘会の会員及びその関係者の親睦・交流及び産業教育・研究を目的とする拠点として会館の運営を行い、事業を通じて法人の運営資金調達の一助としている。

今年度も昨年度同様コロナ禍による緊急事態宣言の発令や感染防止の影響により、殆どの会合が中止となり利用者が大幅に減少した。当期は465千円の事業収益となった。

(3) 固定資産の取得他

コロナ禍にともない整備したリモート会議用WEBシステムのさらなる充実を図った。(61千円)

3. 会議の開催

令和3年5月22日	定時理事会、資産運用委員会
令和3年6月12日	定時評議員会、決議の省略による理事会
令和4年3月17日	大学助成審査委員会
令和4年3月19日	定時理事会

4. 公益目的取得財産残額

554,576,791円(令和3年度末)